

くらしおんなおとこ



文・川野真理子



膝が不調で、初めて気功の先生を訪ねました。先生はじつと私の目を見て「川野さんは東北の出身ですね」と言いました。「はい、青森です」と答えると、「川野さんは先祖代々青森ですね。青森の守護霊さまがたくさんあなたを護っています」と驚くことを言いました。更に、その守護霊さんたちは、自分たちが身体を護っているから、あなたはやりたいことをやりなさいと言っていて、まあいいのです。予期せぬメッセージに驚きながらも、それでも「やっぱり・・・」と思ったのでした。

東京で暮らし始めて早三十年。現在、NPOとして起業家ネットワークを運営しています。その仕事の一方で、この数年の私は青森と東京を繋ぐイベントを開催し、これを生涯の仕事にしたいと思うようになっていました。

去年は渋谷で津野の伝承料理を食べる会を開催し、弘前の農家のお母さんたちに懐かしいお料理を作ってもらいました。

一昨年は「津軽三味線と津軽弁を楽しむ会」を主催。津軽三味線とピアノのセッションを楽しんでもらいました。この時は、下北から漁師さんにも来てもらい、座直のホタテをみなさんに振る舞いました。都会に住む人たちは、とても喜んでくれました。心の中で「どうよ、青森ってすごいでしょー」と思いました。どうしてこんなに青森への思いが身なのか、自分でも不思議な感じがしていたので、先祖代々の青森の神様が私を応援していると聞いた時に、やっぱりそういことだったんだ、と思いました。

東京から青森おこし

私は、地元に住んでいる人は気がつかない「青森の魅力」を、東京の起業家や、望郷の思いを持っている出身者たちに伝えたいと思っています。そのために私はこの十年間、東京のネットワーク作りをしてきたのかも知れませんが、古里を持たない人たちに



挿絵・中畑 夕紀

